



最近のテレビ番組を観ていると、いくつか気づかされることがある。一つには、どこのチャンネルを観ても芸人さんが出演し、番組を盛り立てていることである。また民放においてはやたらコマーシャルが多く、本来の放送内容とほぼ半々で構成されていることである。いずれも資本主義社会においては視聴率が上がらなければ、スポンサーにとっては意味のないことであろうからと、納得し楽しんではいるが、少々イラつくこともないわけではない。

ただ、公共の電波を流しているわけだから、正してほしいと思うものもいくつかある。それは出演者の言葉遣いである。「ぜんぜん～という時」の「ぜんぜん」に呼応する言葉の使い方が明らかにおかしいと思われるのに「ぜんぜん、おいしい」とか、肯定する言葉が文末におかれるのは、全く不可解である。それが流行語のように頻繁に出現してくるのは一体どういうことなのか。何となく「強調」したい言葉として使われているのかなとは思っているのであるが、入試問題であれば当然間違いであろう。また他には若いも若きも「かわいい」という言葉を多用するのが流行のようなのだが、「誉め言葉」としてなんでもかんでもひっくるめて言い表すは分かりやすいようで、とても分かりにくい言葉でもある。

最後に、笑い話や、おかしい、では済まされないものもある。漫才や、コントでの頭たたきは、昔からあったものではあるが、それによって笑いを取っているのは、絶対にやめてほしい一つである。わずかな時間に何度でも相手の頭をたたくのを見てると気分が悪くなる。それを観ていて何が面白いのか、大笑いする観客もどこかおかしく思えてくるのである。人間の奥底にある自覚されない醜さが証明されているように思えてならないのである。

情報化社会においては、常に冷静な眼をもって接しなければいけないと思われることだ。

ご案内

十日講 4月十日(火) 午前のみ 十時より 光受寺

教如上人のご遺徳をしのび、毎月輪番で19ヶ寺のお寺でお勤めをしております。現在は「コロナの関係で、任職・十日講役員のみでのお勤めとなっております。(一般参詣はごさいません)

光受寺学習会 3月18日(土) 午後2時より

「歎異抄」に学ぶ 第一条 浄土真宗をより深くご理解いただくために分かりやすく説明します。

光受寺観梅・各種催し
つりびな展示中
2月下旬～3月中旬



『すのまたさくら座』 満開の笑い。 光受寺

去る二月二十二日(木・祝日) 十三時三十分より光受寺本堂において「落語のおたのしみ」という企画のもと、いき粋墨俣創成プロジェクトの主催によって、笑福亭智丸さんをお招きして、落語を楽しんでいただきました。

智丸さんはもう十年以上も前の事となると思いますが、光受寺の永代経に来ていただいたことがあります。今では4歳になるお子さんもいらつしやるとか、芸にもますます磨きがかかり、満堂の聴衆の皆さんにも大いに落語を楽しんでいただけように思っています。

また智丸さんは詩を書くことがお好きなので、学生時代、詩集「歯車」S「丙午」上梓。中原中也賞、萩原朔太郎とをるもう賞候補になられた実力者でもあります。

(上方落語協会に所属する落語家、笑福亭仁智門下)

「ごうした家康」に因んだ難も展示してあります。

昨年の飛龍梅です。



今月の掲示板

金子大栄

「念仏は自我崩壊の音である」

親鸞聖人は「救われる」ためには二つに条件が必要だと言われています。一つは聞法する「二つ」には自分を疑うことだと言われています。聞法を重ねることによって、自分で考え、自分を信じ、頑張って生きている「凡夫」を生きている自分自身の姿がはつきりしてくるのだと思います。凡夫を生きている二つとは、煩惱を抱えて生きているのだということです。煩惱が不安や悩み、苦しみを生み出しているのです。その苦しみから逃れるために、親鸞聖人は「ただ念仏して弥陀に助けられまいらすべし」と言われました。自分をあてに生きていることが完全に打ち砕かれた時、仏を信じるほかに道はない二つ二つと歩んでいこう。



「私たちは、常に自分は正しい」と思い、生きていることの危つさを「戦争は正義と正義の戦いである」ということを如実に伺い知ることができるのだと、知らされました。また後半は、約30分「浄土真宗」について、どんな宗派？など、意外に知っているように知らない基本的なことなどを当寺の若院が話してくれました。

次回開催は **4月20日(木) 1時半より** 会場 廣専寺
お気軽にお出かけください。お待ちしています。

第3回お寺サロンの開催される

2月16日(木) 2時〜 於 光受寺

回を重ねるごとに参加者も増え、廣専寺のご門徒、光受寺のご門徒の17名の方にご参加いただきました。「この日を楽しみにしています」。じつじつ、うれしいお言葉もいただき、開催者としてはとても励みになりました。

廣専寺の若院さんの小断(ごばなし)をいただきました。最近の社会問題を通して私たちが抱えている根源的な問題点について、お話しいただきました。

新コーナー

十二回連載

樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ
南無阿彌陀仏 人と生まれたことの意味をたずねて二つ

— 問い続ける歩みをつまじく —

最終回



こころの散歩

人生の大目標 「平生業成」 樹林

親鸞聖人の教えをつづめて言えば「平生業成」になると言われます。末灯抄には「臨終待つことなし、来迎たのむことなし、信心定まるるとき往生またさだまる」という一節があります。

私どもには、死後往生の觀念が色濃くありますが、「信心定まるるとき 往生定まる」とのことばには、一皮むけたような新鮮さがあります。人生の大目標はまさに「平生業成」につきる感があります。

浄土真宗の教えには二種回回思想がありますが、浄土に生まれた者は、引き続きして釈迦の救済の働きに参加する二つ二つです。平生業成の考えに立てば、あの世ではななへん、二つ二つで二種回回が実現する二つ二つになります。

二つ二つしてみますと、信心の深めの重要さが身に沁みます。守り生かす働きにいよいよ感謝の念を深め、報恩の誠を捧げたいと思うばかりです。



光受寺御遠忌法要

お知らせ

長らく「愛読いただきました」二つ二つの散歩は今年度ももつて終りとさせていただきます。ありがとうございます。また、金曜喫茶はお寺サロンへと移行し、閉じます。